

1 本校の教育目標

＜豊かな情操とたくましい身体を養い、自分の考えで実践できる子を育てる＞

【めざす子ども像】 「ともだちと なかよく みんなでがんばる子」

*㊦もに学びあう子（知） *㊦かよく協力する子（徳） *㊦も心もきたえる子（体）

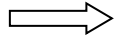
○百人百花 ⇒ 一人一人の子どもの「よさ」と「生きる力」を伸ばす

○「よさ」とは？⇒ 子どもはだれもが「光るもの」をもっている
その子の「光るもの」を見つけることが教師のやりがいとなる



○「生きる力」とは？⇒ 複雑で予測困難な時代だからこそ必要となる
困難から逃げずに立ち向かう姿勢、問題を解決しようとする力
他者とコミュニケーションする術、他者の悩みを感じ取る洞察力

「豊南小が大すき！」



子どもたちの笑顔あふれる学校に

① 教師に必要な2つの目線

・ 子ども目線（寄りそう・声かけ）と プロ教師目線（豊南小を巣立った後の姿）

② 学級の子どもたちと担任に必要な2つの関係性

・ つなぐこと（安心で授業が楽しく受けられる関係）と

鍛えること（嫌なことや困難から逃げない関係）

③ 一人一人の子どもを育てるために必要な2つの「こころ」

・ 真ごころ（子どもを一人の人格ある人間として大切にすること）と

遊びごころ（ゆとりをもってユーモアのセンスを磨くこころ）

目には見えない部分

常に意識すべき部分

2 学校経営の方針（中期目標→3～5年のスパンで達成する）

- (1) 「学ぶ喜び」を実感させ、主体的・対話的な授業づくりを基盤とした確かな学力を育成する
- (2) たくましい心を育成し、温かな気持ちでかかわり合える学校・学級づくりに努める
- (3) 安全で安心できる教育環境づくりに最善を尽くす
- (4) 近隣小中・地域との連携を深め、地域・保護者からの信頼と協調が得られるよう努める
- (5) 教職員が心身ともに健康で、教育のプロとしての資質向上、働き方改革への高い意識をもち、チームとして学校を支える職場づくりに努める

3 重点努力目標（短期目標→単年度で達成する）

- (1) 「学ぶ喜び」を実感させ、主体的・対話的な授業づくりを基盤とした確かな学力を育成する
・ ねらいを明確にし、見通しをもって学習に取り組み、振り返りで新たな課題を発見できる、学ぶ喜びを味わうことのできる授業づくりに努める。

- ・問題解決的な学習・体験的な学習・ICT 機器の効果的な活用を組み合わせ、自らの意思で、判断・決定していく場面を意図的に設定する授業づくりを心がける。

○日頃からの授業改善を実践する（主体的・対話的・深い学び）（個の学びとかかわりあい）

○にこにこトークで「聴く・話す力」を、漢字・算数チャレンジで「基礎・基本」の定着を

（２）たくましい心を育成し、温かな気持ちでかかわり合える学校・学級づくりに努める

- ・「自分から、相手を見て、笑顔で」のあいさつができる子どもを育成する。
- ・計画的な道徳授業等の実践を通して、自己肯定感を高めるとともに、自己有用感を高める。
- ・たてわり活動を中心とした常時活動の充実を図り、共感的人間関係を構築し、思いやりと感謝の心を育成する。

○あいさつ指導からの脱却。範を示し「自分から・相手の顔を見て・笑顔で」を習慣化する

○月２回の「♡ハート♡フルタイム」の効果的な実践の積み重ねで、固定化集団の変化を図る

（３）安全で安心できる教育環境づくりに最善を尽くす

- ・すべての教職員ですべての子どもを見まもり、いじめ・不登校・虐待・問題行動に対して、組織として早期発見に努め、未然に防ぐ学校・学級づくりに努める。
- ・安全教育や保育園との合同避難訓練等の体験活動を通して、「自分のいのちは自分で守る」ことができる力を伸長する。
- ・情報モラル教育を毎学期実施し、場面に応じた適切な判断を育成しながら、子どもの情報活用能力を高める。

○いじめには（未然防止・早期発見で対応）と不登校児童には（組織で連携して対応）

○子どもの「いのち」を最優先に考え、情報を最大限に集め、最悪を想定した対応をする

（４）近隣小中・地域との連携を深め、地域・保護者からの信頼と協調が得られるよう努める

- ・小中一貫・３小連携（富士見・高根・豊南）による持続可能で効果的な教育交流をすすめる。
- ・家庭・地域との連携・協力を密にし、地域に開かれた魅力ある教育活動をより一層展開することで信頼される学校づくりを推進する。
- ・学校経営や運営の充実を図るため、学校評議員制度や評価システムを活用する。

○持続可能な形での小中一貫教育を維持しつつ、地域ボランティアの掘り起しやペアリング校（高根小・富士見小）との合同授業など相互交流の場を工夫して行う

○学校ホームページの定期的な更新を継続し、子ども・行事を中心とした情報発信を行う

（５）教職員が心身ともに健康で、教育のプロとしての資質向上、働き方改革への高い意識をもち、チームとして学校を支える職場づくりに努める

- ・学び合い、高め合う教職員集団を目ざし、日々の授業改善のための研修を計画的に実施する。
- ・何でも相談できる温かい職場づくりに努めるとともに、行事のもち方の工夫や会議の効率化など、個々のタイムマネジメントへの意識の向上を図る。
- ・「チーム豊南」の協働体制と支援員の活用をすすめ、教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保に努める。

○力量向上につながる現職研修を計画し、全職員が「授業改善」や「業務改善」を意識する

○個人裁量日・定時退校日を効果的に活用し、自己研鑽やメンタルヘルスへの意識を高める

